

そらいずむ

色野そらら

宇宙（そら）のこと

わたしが宇宙（そら）とよんでいるなにかがあります。

宇宙（そら）は誰にもとらえきれないほど大きいのです。

宇宙（そら）は想像もつかないくらい、すごいのです。

宇宙（そら）は人間の言葉では基本的には表現することはできません。

けれども、

なにか、わたしが、宇宙（そら）のことについて、お話しできることをすこし、お話してみましよう。

宇宙（そら）は生きてるんだよ

宇宙（そら）は生きています。

もっといえば、命あるものは、すべてが宇宙（そら）のうちに生きています。

いえ、
すべての「あるもの」、

人間、
動物、
草木、
山や川、
海、
地球、
月、
お陽さま、
宇宙、

目に見えない、微生物や細胞
そして、分子や原子

「あるもの」のすべては、
宇宙（そら）のあらわれたものなんです。

わたしたちすべては宇宙（そら）のうちに生きていて、
わたしたちすべてのうちに宇宙（そら）が生きています。

わたしたちすべては、宇宙（そら）を生きていて、
宇宙（そら）は、わたしたちすべてを生きています。

宇宙（そら）には「おやくそく」があるんだよ

宇宙（そら）というのは、

大きな大きな、「ルール」です。

宇宙（そら）は、あらゆる「あるもの」にひとつの「おやくそく」をくださいました。

「法則」ともいいます。

「みことば」ともいいます。

$7 + 5 = 12$

これも宇宙（そら）からの「おやくそく」。

人に親切にすれば、心があたたまる。

じつは、これも宇宙（そら）からの「おやくそく」。

その「おやくそく」によって、

ぼくはぼくであって、
あなたはあなたであって、
地球は地球であって、
山は山であって、
川は川であるのです。

その「おやくそく」のなかにこそ、
その「おやくそく」をとおして、
宇宙（そら）は姿を現してくださるのです。

人生の目的とは、
この宇宙（そら）からの、
宇宙（そら）のうちの、
「おやくそく」を思い出すこと、
「おやくそく」を知っていくこと、
「おやくそく」の通りに生きて幸せになることなのです。

宇宙（そら）とは愛なんだよ

「おやくそく」というのは、つまり、「愛」。

やさしさ。

あなたが生きていることは、

この上なくよいことなんだというメッセージ。

その「おやくそく」というのは、

決して、

人をいじめたり、苦しめたり、窮屈にしたりするものではない。

その「おやくそく」というのは、

ただ、

「愛」。

それだけ。

それがすべて。

宇宙（そら）は、

「おやくそく」。

「おやくそく」とは

愛。

宇宙（そら）は、

愛。

宇宙（そら）は人の想像を超えてとてつもなく大きい。

すべてのすべて。

だからこそ、

宇宙（そら）はどこにでもいらっしゃる。

呼びかければ、すぐに答えてくださる。

あなたが、

宇宙（そら）を求めたとき、

あなたは、

すでに宇宙（そら）に求められているし、

あなたが、

宇宙（そら）に触れたいと思ったその瞬間に、

宇宙（そら）はあなたに触れています。

宇宙（そら）と「生きていること」

宇宙（そら）は、

なにかを裁くということは絶対にしません。

宇宙（そら）は、

すべての「あるもの」が、

「生きる」ことを望んでいます。

生きるということは、

宇宙（そら）につながっていること。

そして、

「おやくそく」にしたがって生きるということなのです。

私たちの「生きていること」は、

頭と、身体があって、

そのなかで、

呼吸したり、

動いたり、

見たり、

聞いたり、
嗅いだり、
味わったり、
触れたりする
ことや、

感情を持ったり、
言葉を使って、
考えたり、思ったり、

そんなくらいのことではない。

そんな、「いきている」中に閉じ込められた状態で、
とらえられる宇宙（そら）は、
ほんの一部。

でもね、

そんな「いきている」ことや、
身体や、頭があるということは、

それも、
やっぱり宇宙（そら）からの正しい「おやくそく」によって成り立っているんだ。

だから、

ちっぽけで、限界があるからって、何もできないわけではないんだよ。

「おやくそく」にしたがって、
ただしく、頭や体を使えば、
「しあわせ」がごほうびとしてあたえられます。

けれども、宇宙（そら）の「おやくそく」のことをすっかり忘れて、
頭と身体だけをぜったいだなんて思ってしまうと、
愛から外れてしまいますから、
その人は闇のなかで苦しむことになります。

でも、宇宙（そら）は
あなたが、「おやくそく」を思い出してくれるのを待ってるんですよ。

呼びかけながら、ずっと待ってるんだよ。

やさしく目を向けて、待っています。

宇宙（そら）と、生きていることの変化

「生きていること」のうちでは、

いろんな「意味」というものがありますよね。

これは美しいとか、

あれは醜いとか、

多いとか、

少ないとか。

「生きてること」のなかで、

「ある」とか

「ない」とか

もそうだし、

「生きている」

「死んだ」

もそうだよな。

でも、

宇宙（そら）から、見たらどうなるかな？

広大な海のうえには、波が立ちます。

波が生じたり、消えたりしていきます。

波の表面を見れば、「出てくる」「消える」
「ある」「ない」

だけれども、

大きな大きな海の中からすれば、
「変わっているようで、変わっていない」んだよね。

わたしたり、「いきているもの」や、
「あるもの」すべては、

宇宙（そら）につながっていて、

宇宙（そら）の一部分。

そう考えると、

そのことに気が付くと、

なんだか、

楽になりませんか。

安心しませんか。

うれしく感じませんか。

宇宙（そら）の声を聴こうね

だから、
心をひろく、広く持とうね。

心を宇宙（そら）に挙げよう。

心を宇宙（そら）に広げよう。

あなたが、今、大変な困難の中にあったり、
焦っていたり、八方ふさがりのときこそ、
宇宙（そら）は、いつもあなたをまもってくれることを確かめよう。

そのことに気が付かなくても大丈夫。
ただ、そのことを信じるだけでいい。

本当に、宇宙（そら）はあなたをいい方向に向かわせてくれるから。

思いもよらなかった方法や、奇跡のようなことが起こって、道が開けるかもしれない。

だって、宇宙（そら）は、あなたをつくって、すべてのすべてをつくった方だから。

でも、その宇宙（そら）の「声」は、
人間の世界の「声」や言葉とは全然違う。

だから、もっと、もっと耳を澄ませないと聞こえない。

心の耳をね。

「おやくそく」はいつも、あなたに語りかけています。

風のざわめきも、

雲が流れていくことも、
太陽が沈んではのぼることも、
地震や台風が大地を揺さぶることも、
宇宙が回っていることも、

みんなみんな、宇宙（そら）からのメッセージなんです。

それは、心の耳を澄ませなければ聞こえない。

その「語り」を聞いたとき、

あなたは、「思い出す」のです。

「おやくそく」のことを。

そして、宇宙（そら）の声を聴いて、
宇宙（そら）につながる事ができたとき、
あなたにとって、苦しみは苦しみでなくなるし、
寂しさも消え失せます。

宇宙（そら）の力をもらおう

宇宙（そら）は、すべてだけでも、

どこかとおくの存在ではなくて、

あなたのうちがわにすんでいるものなんだ。

あなたの内側に住んでいる宇宙（そら）は、

あなたの眼で見る世界、耳で聞く世界、触れる世界の知らないことを知っている。

それは、

時間にも制限されないし、

空間さえ超越している。

もし、「あなた」が、今まで経験してきたことだけで「今」に限界を感じているんだったら、
あなたのうちに生きている宇宙（そら）に聴いてみて。

信じて、委ねてみて。

「あなた」の頭ではなく、あなたの心や魂にかたりかける宇宙（そら）を信じてみて。

それは、あなたに思いもよらない方法で、あなたを導いてくれる。

なぜなら、宇宙（そら）は、全知全能で、何でもできるから。

太陽を作り、地球をつくり、星を回転させているのも宇宙（そら）だし、

地球に生物を生み出し、

見えないほどの受精卵から、あなたを寸分の狂いもなくつくりあげ、

あなたの心臓を動かし、いまここに存在させているのも宇宙（そら）なんだよ。

たとえば、あなたが「心臓を止めて」「内臓を動かすのをやめて」といっても、無理でしょう

。

でも、宇宙（そら）の潜在意識としての働きは、あなたをこえてしっかり動いてくれているんだよ。

「あなた」は宇宙（そら）がどのようなものか知らないけれども、ちゃんと、あなたが指示を出せば、

宇宙（そら）はあなたに膨大なエネルギーを与えてくれる。

たとえば、大きなタンカーがあるけれども、

それをうごかす船長さんは、ハンドル一つ切るだけで、それを動かすことができるよね。

本当にそうなんだよ。

信じれば信じるだけ、宇宙（そら）は力を貸してくれる。

一度、信じてお願いしたら、

あれこれ心配せずに、宇宙（そら）が水面下でゆっくりとことを進めてくれるのを信頼してください。

カーナビのようにしっかりあなたを目的地まで最短距離で導いてくれるはずですよ。

頭と肉体の目、つまり、現実的に見て、「あれ？この道であってるの？」と思うときもありますが、本当に大丈夫なのです。

どうしても、心配な時は、

「そらが、わたしをいつでも守っているからあんしんしていて大丈夫。」

「わたしは、完全なそらに完全に守られているから、安心して楽しんでこの課題を乗り越えることができます。」

とくりかえし、よろこびをこめて、自分のなかに住んでいる宇宙（そら）に語り掛けてください。

「あなた」を超えて、宇宙（そら）は、心配しなくとも、動いてくれていますから。

心配事や、恐れは、あなたが肉体とアタマを持っている限りは雑草のように出てくるものだ

から、とらわれなくて、切り捨てていってね。

恐れは蜃気楼だよ。

そして、それを肯定的でうれしくて、愛あふれる、幸せな、イメージに、オセロゲームのように、

次々とひっくり返していくの。

恐れという雑草は出さないことじゃなくて、すべては、あなたの刈り取り力と、ひっくり返し力にかかっているの。

本当に、こまめに、こまめにね。

雑草に負けるなー（笑）

あなたのうちに生きている宇宙（そら）にそれを伝えていけば、あなたの知らないところで、あなたの心からの願いはすっかり叶えられるのです。

宇宙（そら）が悲しむこと

宇宙（そら）は、本当に全知全能です。

肉体をまとった人の予想をはるかに超えて。

あなたは、太陽系のその向こうを想像だけでもできますか？

宇宙（そら）は、人間の想像を超えたものを創造しているんですね。

宇宙（そら）を完全に信頼しましょう。

さて、

宇宙（そら）が正しく力を貸してくれるのは、

「みんなが、幸せになれる」場合のみです。

「自分だけ幸せになればいいや」

「自分は幸せじゃなくてもいいけれども、みんな幸せになってください」

こんな願いは、だめなんです。

たとえば、

・他人の不幸を願う

これは、論外です。

宇宙（そら）は、主語を認識しませんから、他人にかけた呪いは、かけた本人に戻ってきます。

許せないうらみがあるのはわかるのですが、本当の望みはこうでしょう。

「私は、大切にされたい。認められたい。みんなで幸せな生活を送りたい。」ということでしょう。

それが、実現した様子を、繰り返し宇宙（そら）に願ってごらんなさい。

数か月したころには、その相手は大地に飲み込まれたようにいなくなるか、改心するかしてくれる現象があなたの目の前に現れるはずですよ。

・自分を度外視して、人に自分の望みを押し付けて願う

たとえば、息子に「公務員になってほしい」とか「有名大学に入ってほしい」とか願って祈っているお母さんがいます。もし、息子さんがそれを望んでいれば問題ないのですが、それが食い違う場合は、愛ではなく、「押しつけ」であり、息子さんにもお母さん自身にも「呪い」がしばりつけることになります。

そして、その願いはことごとくかなわないばかりか、反作用でひきこもりだとか、不登校になる事態が生じるのです。

「息子が、宇宙（そら）にとってもっとも望み通りのところに行くことができました。感謝いたします。」と手放せばいいのです。

そして、お母さん自身も子育てから自由になって、自分の幸せを願えばいいのです。自分が幸せにならないと、家族も幸せにはなりません。そういう法則があるんです。

・否定の形で願う

「入試に落ちませんように。」

「就職活動に失敗してニートになりませんように。」

なぜか、入試には落ち、ニートになってしまう方向に宇宙（そら）は力を与えます。

なぜなら、落ちるイメージ、ニートのイメージが宇宙（そら）にはインプットされてしまうからです。

なので、

「入試に合格して、友達いっぱい勉強おもしろいキャンパスライフをおくることができました。」

「よい会社に導かれて、そこで幸せに活躍しています。」

と、言いかえればよいでしょう。

・願望の形で願う

一般的な、「～しますように」は、じつは「叶っていない状態」として、宇宙（そら）は認識

してしまうので、「叶わない状態」がかなう確率のほうが多いのです。

なので、「すでになかったイメージ」を感謝して先取りしてしまうことです。

あとは、精進して、行動して、のんびり自分の中にある宇宙（そら）の力をのびのびと発揮していけばよいのです。

宇宙（そら）の個人的領域

五感と思考では、客観的に確認できるものではないので、
「私個人がこういう仮説を立てている」という見方で結構です。

この「世界」は、広大な海の上に生じては消え、変化しつつも、また元の海に戻っていく波のように、
宇宙（そら）の膜にしかすぎません。

その広大な愛と知恵と光と慈悲と感謝の宇宙（そら）の海の底の海底にも、地表があり、マントルがあり、
というように、やはり層があるのではないかということです。

しかし、すべての本質は、「ひとつの宇宙（そら）」。
その「ひとつ」が、人間になったり、植物になったり、星になったり、魂になったり、と無限の分化生成を生み出しているのです。

そのなかで、宇宙（そら）は髪の毛一本落ちるのに際しても、寸分のたがいもなく、うまくその存在固有の役割を活かしているのです。
不思議なことに、「あなた」に、すべての人間に、宇宙（そら）のすべてが組み込まれているのです。
ひとつの宇宙（そら）と、あなたは、あらゆる条件、あらゆる制約を超えて、直接的にかかわることが可能なのです。

それらは、巨大な愛のエネルギーということもできます。

では、そのエネルギーの深まりを見ていきましょう。

1. 意識エネルギー（自我）

わたしたちが、世界において、「わたし」とか「個人」とか「〇〇さん」とか呼んでいるものです。

肉体や顔をもって、一定の意志のもとで、生活を送り、互いに関わりをしている見えている「その人」のことです。

宇宙（そら）は、世界に触れる感覚器官として、「わたし」を作り出しました。

「普通の人」は、「私がいのちを持っていて」、
自分が一番初めにいてその周りに世界があって、世界のなかに私が存在するという、「天動説」
で生きていますが、
コペルニクスのように、その見方をひっくり返してみましょう。
太陽が中心にあって、地球がその周りをまわっているように、
実は、宇宙（そら）がはじめにあって、大きな大きな命の海が、「あなた」「わたし」を
生きているのです。

あなたがいのちを持っているのではありません。
いのちがあなたを持っているのです。

2. 脳エネルギー（罪、欲望、盲目意志、肉体）

私たちの「じぶん」「意識」は、自分自身をある程度まではコントロールすることはできま
すが、それでも、病気になったり、失敗をしたりすることはどうしようもないことなのです。
「意識エネルギー」はその200倍とも20000倍とも言われているこの脳エネルギーの上
に乗っかっていますから、意識する心がいかに努力しても、容易にその行動パターンは変わりま
せん。

無意識のうちに、怒ってしまう、落ち込んでしまう。失敗や過ちを犯してしまう。努力しようと
してもできない。こういったことがあることが、私たちが世界に生きている限り逃れることはで
きないといえます。

この脳エネルギーの使い道をあやまるのが、あらゆる「苦しみ」の原因とも言えましょう。

この脳エネルギーは、「暴れ馬」にたとえられることもあります。

乗りこなせば名馬ですが、乗りこなせなかったらじゃじゃ馬です。

逆に、言えばこの脳エネルギーをうまく乗りこなせたら、いやがおうでも人生は成功の方向に
向かっていくともいえます。

人生の目的の一つに、この脳エネルギーをまとめて、精神エネルギーの経験を増やしていくと
いうことがあるようです。

この、脳は、波動を生み出すコイルのような役割を果たします。

これに、愛と光の精神エネルギーという電流が流れることによって、磁石のように、同じよう
なものを共鳴させ、引き寄せ、一つの「磁場（マグネティック・フィールド）」を作り上げてい
くのです。

3. 精神エネルギー（魂、霊、末那識）

脳エネルギーの根底には、小さな愛と光がろうそくのように輝いています。

場所的には、

ひとつめが、脳のあたり。

つぎに、胸のあたり。心といわれたりします。

そして、丹田のあたりにその中心があり、そこにさらに高次元のエネルギーが力を与えます。

それらが、ひとつなぎになって、肉体を照らすのです。

このエネルギーは、言語で伝えることが、すこし難しいのです。なぜなら、「波動」だからです。しかし、言語を介さないと、伝えることもできません。

物質的なものを超えた、感動や愛が人を揺り動かすのも、人間は本質的に精神を有した存在だと言葉では言えないまでも分かっているからなのです。

そのような、感動が生み出される場所には、宇宙（そら）が、精神エネルギーに力を与えているといってもよいでしょう。

ツキや運といわれる領域も、この精神エネルギーの如何にかかっているのです。

この、精神エネルギーの波動をよくするのが、「言葉」「言霊」です。

「真言」や

「ついでる」「ありがとう」などといった、明るい言葉は、繰り返すことによって、確実に精神エネルギーと脳エネルギーのつながりを強め、強い光の磁力を発生させていくのです。

宇宙（そら）の超個人的領域

さて、これまで説明してきたエネルギーは、個人の深いエネルギーですが、それを支えているエネルギーは、根底でつながっているのです。

4. 集合潜在エネルギー（守護霊、指導霊、阿頼耶識、無意識）

この「集合潜在エネルギー」は肉体が消滅した（つまり、「死」と呼んでいるもの）あとも、宇宙（そら）のうちで、精神でしか認識できない姿を取った生命体として活動を続けます。そして、このエネルギーの一部が、指だけお湯につかるようにして「世界」と面して、「わたし」という意識をもっているにすぎません。

どうも、最近の研究では、「魂」「うまれかわり」というものは、「手と指」もしくは、「花と花びら」の関係のように、たとえられます。

よくある誤解として、生まれ変わりは、一度死んだ生命体が、記憶を失って、別の生命体に変わっていくというもの。

そこにおいて、「一度きりの、かけがえのない、個人」はなくなってしまうから、キリスト教では、輪廻を否定し、「永遠の生命」を説きます。

しかし、こう考えればどうでしょう。

前の時代には親指が。次の時代には、人差し指が。また次の時代には、中指が・・・。

といった具合に、一つの「手」としての魂は、同じでも、

世界の水につかる指は、それぞれかけがえのない、一本の指、一度きりの人生なのです。

そして、水に浸かっている「わたし」を、手ぜんたいとしての潜在エネルギー「魂・霊」は、守ったり、指示を出したりしているわけです。

しかし、物質化現象なんかは起こせませんから、いわゆる、「インスピレーション」「アイデア」「虫の知らせ」という形で、魂、精神エネルギーに伝えているわけです。

そして、このエネルギーは、見える世界の奥の宇宙（そら）の領域においては相互に繋がって互いに影響を与え合っているのです。

手が、腕につながっていて、腕が体に繋がっていて、身体は、頭がまとめて指示をだしているように。

5. 集団潜在エネルギー（民族、宗教、霊団、神々、天使、仏）

宗教や、哲学の領域でも、宇宙（そら）や根本的な一つの真理を求める動きは普遍的にあります。

ただし、地域や時代や文化によって、その世界における具体的なあり方は制約を受けざるを得ません。

そして、その制約こそが、実は魅力であったり個性であったりするのです。

むしろ、制約こそが、地域や時代や文化を創造してきたといえましょう。

宇宙（そら）は、ひとつですが、のっぺらぼうの「ただあるだけ」の観念では決してなく、時代や地域や文化を通して、発展し続ける生き生きとしたものなのです。

時代や文化、民族や宗教が表象として世界に現れている根底には、この「集団エネルギー」「精神」としての宇宙（そら）が、働いているのです。

発生した時はホットなエネルギーだったものも、時間が立てば冷めて埃を被って化石になってしまうように、政治でも宗教でも芸術でもそれは言えます。実は、言葉が指し示している真理自体はさほど変わることはありません。

私たちが、なすべきことは、それにエネルギーを注いで、生命を吹き込み続けることです。

6. ガイアエネルギー（絶対精神、如来）

地球というのは、一つの大生命です。

無機質なものも、有機物も、生命体もみな、このガイアエネルギーの生命の一部です。

人間の脳が、発達して、文明を生み出すようになったのも、これまたガイアエネルギーの愛によるものなのです。

人間は地球の表面にできたがん細胞、地球にとって大迷惑、
という言い方に私は疑問を感じています。

確かに、表層的に見ればそうかもしれません。

しかし、こう考えてはどうでしょう。

お母さんが、愛する我が子を産みました。

最初はかわいかった息子も、小学校、中学校と上がっていくにつれて、反抗して、お母さんに迷惑をかけるようになりました。家も部屋も荒れ放題。

子ども自身も素行の悪さから、自分の健康を害するようになってきました。

それでも、おかあさんは、じっと見守って、食事を提供していきます。

別の兄弟がいました。

「おれたち、子どもは、お母さんに迷惑をかけてばかりだ……。かといって、どうすることもできない。なあ、俺たち、いっそのこと死んだほうがいいんじゃないか。」

それを聞いた、お母さんはどれほど心を痛めるでしょうか。

できの悪い我が子でも、あと、数千万年くらいすれば魂も成長して、自分の手伝いをしてくれるに違いありません。

まだ、人類は誕生して数百万年（と科学的には言われております）ですが、

弥勒菩薩様が全人類を地球ごとお救いになるまで、56億7000万年といわれていますから

、
人類は年齢にして、「第一次反抗期」くらいのものでしょうか。

人類は、そんな早いうちから絶望してはなりません。

7. 大宇宙エネルギー（唯一神、天の御中主、大日如来、ヤハウエ、空、アンマラ識）

大宇宙の中心には、「ただひとつの神さま」がいるといわれています。

地域や文化によって、その大宇宙エネルギーのことを、

アラーとか、ヤハウエとか、大日如来とか、天の御中主様とか呼んでいます。

それは、不思議なことに、人間の想像をはるかに超えた無限の存在でありながら、

いま、ここにいるあなたに直接タッチしているのです。

あなたが、呼吸していることが、そのまま、実は宇宙（そら）が呼吸していることになるのです。

宇宙というのは、ビッグバンをして開闢して、何千億年たったら、ビッグクランチで消滅し、またビッグバンを起こして・・・

をほぼ無限に繰り返している生命体なのだそうです。

宇宙（そら）は、そうやって長い長い呼吸をしています。

いわば、「絶対無限者」ということができます。

そこでは、「存在」も「無」も超越した無限の大生命が言語で分節化される以前の在り方で生きておられます。

今まであげた、あらゆる種類のエネルギーは、ただひとつの「宇宙（そら）」の顕れであり、すべてのものは、そこから発生し、またふたたび、そこに戻っていきます。

あたかも、呼吸のように。

宇宙（そら）は、呼吸をして、宇宙を開闢させ、終わらせ、また、いのちをあたえ、吸い込みを繰り返しているのです。

子どものころは、「死んで、自分という存在が消滅すること」とか、「こういう果てしない宇宙の中にただひとり投げ出された」ことが恐ろしくて恐ろしくてたまりませんでした。本当の自分はこの宇宙（そら）で、「自分」として成立しているものが、ちょっと世界に役割をもってお手伝いにきているだけなんだと気が付けば、相当心はひろくなりますよね。

そして、ものが存在することは、そこに無限のつながりと相互依存が宇宙の網のように相互依存していることも、よくよく考えたら、事実ですよ。

たとえば、缶コーヒー一本買っただけで、1000社以上に利益がいきわたる事実から見ても、私たち一人一人の力は、宇宙全体に影響を与えられるだけ偉大なものということがわかるのです。

注意ですが、壮大なことを語れる人が偉いとか立派な人格者とは限りません。

「言葉」で、つまり意識エネルギーの世界で、「翻訳する」って、常に冷めつつあって「エネルギーそのもの」ではないですからね。

真理はひとつなので、おそらく、おなじことをあっちでもこっちでも言っている方はいると思いますが、今回は私なりの個性でご紹介させていただきました。

宇宙（そら）とあなた

ここまでのことを知ったら、
もう、安心していて大丈夫です。

あなたが学者や宗教家でない限り、大きすぎるお話は、追求しすぎる必要はありませんし、考えるのもたまにでいいでしょう。

対象として、言葉で語ったり考えたりするべきものではないからです。

それより、あなたがどこのどんな身分の人であれ、いま、目の前にあることが、たとえ、皿洗いや掃除程度のことで、すべて宇宙（そら）ぜんたいと直結していることを自覚していればと思います。

「宇宙（そら）が何か。」という問いかけは実は愚問なのかもしれません。

宇宙（そら）は、いま、ここにいて、息をして、世界に触れて、
あなたと共にいます。

そのこと、そのものです。

あなたはひとりぼっちだと思っているが、いつも宇宙（そら）がともにいる。

あとは、考えるのをやめて、心を開き、感じることです。

インスピレーションを受けたのは、
山元加津子さんの『宇宙の約束』という書籍と映画から。

四国遍路の時、山小屋に数日間とどまっていた時に、ノートに書き溜めていたアイデアを書き起こしてまとめてみたものです。

「そらいずむ」は、哲学や説明をこえて、メッセージであり、宣言でありたいと思います。

2014年 12月

待降節に

色野そらら

そらいずむ

<http://p.booklog.jp/book/91946>

著者：色野そらら

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/yu-a88/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/91946>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/91946>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ